



2020 オートバックス全日本カート選手権 OK 部門 第3戦・4戦

開催場所 茂原ツインサーキット(千葉県)
開催日 9月19日・20日
参加台数 OK クラス 29台
天候 土曜日 晴れ / 日曜日 晴れ
路面状況 土曜日 ドライ / 日曜日 ドライ

～INTREPID JAPAN CORSE～

監督:佐藤奨二

ドライバー:佐藤凌音 / 大宮賢人

メカニック:伊藤進/橋本剛基/仁科真一

エンジン担当:K SPEED WIN

アドバイザー:井上寛之



2020全日本カート選手権 第3 & 4 戦 (茂原ツインサーキット)

2020年の全日本カート選手権は、新型コロナウイルスの影響で開幕が遅れたものの、リスケジュールされ開幕戦が7月に行われた。それから約 2 カ月というインターバルをおき、例年は灼熱のイメージがある千葉県は茂原ツインサーキットで OK クラスの2大会目(第3&4戦)が行われる。極端に温度レンジの狭いスペシャルタイヤを使用する OK クラスにおいて各タイヤメーカーとも今大会が例年通り猛暑なのか、それとも秋風涼しい季節となっているのか・・・大会が開催される9月中旬の気温予想をしながらタイヤ開発テストを事前に行い、そしていよいよチームはレースウィークに木曜

日から走行を開始。もちろん今大会も2人のドライバーを日本最高峰カテゴリーである OK クラスにエントリーさせている。一人は OK クラス2年目となる佐藤 凌音(さとう りょうと)選手、そしてもう一人は大宮 賢人(おおみや けん)選手の若い16歳コンビだ。去年はテストからスピードがありながらレースウィークで近年稀に見るとツボり方をして大苦戦、2戦目でスピードを取り戻した直後に豪雨になり自分たちのレースが出来ないながらも BS タイヤ内では上位に食い込んだサーキット。今年は木曜日の走り出しから瞬発的なタイムが出ずに苦労する状況・・・。しかしロングランのタイヤの状況、持ちは抜けており決勝レースの展開次第では非常に面白い展開に出来る雰囲気木曜日、金曜日の走行を突出したタイムは出せないながらもセッティングを煮詰めながら完了しました。ドライバーにもシャーシにもシビアな茂原は気温もそこまで上がらず、秋風の涼しい大会となり、お天気も秋晴れとなりました。



大宮 賢人 選手



佐藤 凌音 選手

【タイムトライアル】 佐藤 B 組5位(全体13位) / 大宮 A 組9位(全体16位)

第3&4戦の予選スタート順位を決めるタイムトライアルは土曜日の15時過ぎにスタート。まずタイムトライアル A 組の大宮だが、7分のタイムトライアルのうち約2分が過ぎたところにコースイン。タイヤを温める段階で一瞬前方のマシンに追いついてしまったが、上手くパスしてタイムアタック開始。当初順調にタイムを上げていたが、想像以上に前方マシンとの差が一番おいしいラップで詰まってしまった…。あとコンマ1か2を上げられそうな雰囲気があっただけに、タイムトライアルに出るタイミングも今後の課題として残した。また佐藤は、この OK クラスではタイムがあまり出ないと言われるタイムトライアルの B 組。全車新品タイヤが投入されるタイムトライアルでドライの場合は B 組では既にゴムがのり過ぎて、くわれ過ぎ、タイムが A 組にくらべるとコンマ1、2遅いのではないかとされている。佐藤も残り時間がおよそ2分を切ったところでコースイン。比較的場所取りも良くタイムも伸ばしていたが、こちららあと1周いけるかというタイミングでチェッカーで、両選手ともに若干のタイムロスが、タイムトライアルスタートのタイミングや位置取りでもあったように見えた。チームとしても今後しっかりと詰めたポイントでもある。



【第3戦 予選】 佐藤 10 位 / 大宮 9 位



第3戦の予選は土曜日の夕方16:30にスタート。翌日の第4戦の決勝より遅い時間からのスタートで朝夕の気温差が激しい時期だけにスペシャルタイヤを履く OK クラスには突然の好不調が訪れるかもしれない。ローリング中にポールの選手がスピンアウト、スタートが切れ1~2コーナーに各車流れ込んでいくが、茂原のコースは幅が広いということもあり大きな混乱は起きなかった。佐藤、大宮も順調にスタート。スタート直後の下りシケインで目の前のマシンが他車を巻き込みながらコースアウト…。両選手ともに寸でのところで上手くかわし大宮が11番手、佐藤は13番手で1周目を終える。その後、レースは大きな混乱や展開はなく大宮は9位。佐藤も大宮のすぐ後ろにまでポジションを戻しチェッカー。ゴール後、両選手のタイヤコンディションは抜群。タイヤ残量、摩耗の仕方。瞬発力は難しい今回の茂原大会だが決勝には面白い性格でもある。



【第3戦 決勝】 佐藤17位(F スポイラー脱落ペナルティ) / 大宮7位

第3戦決勝は日曜日の9時35分にスタート。当初、日曜日の天気予報に雨マークがあったが、徐々に雨マークは夕方以降へずれていき、日曜日の午前中は秋晴れだ。スタート直後の1～2コーナー、上位陣の中で接触があり2選手がスピンアウト。大宮はそのスピンアウトを上手くよけオープニングラップを6位で帰ってくる。上位陣との距離も離れておらず、タイヤが既に減った状態での決勝ではタイムも上々で表彰台も狙える予感。10位スタートの佐藤は上位陣のスピンアウトに巻き込まれはしなかったが、少し出遅れてスタートと同じ10位でオープニングラップを終える。レースはオープニングラップ



でトップの選手が抜けてしまったが、実はベストタイムは大宮の方が速い。今回は完全にブリヂストンタイヤ有利の様相。上位陣には1名だけ DL タイヤの選手を挟み、各車タイヤが温まるまで、特色がでたライン取りやブレーキポイントを行う。また前回大会の御殿場でもそうであったが、ここ茂原もドライバーにはかなり



り体力を削られる過酷なサーキット。タイムは出ているものの首の倒し方やコーナーの立ち上がりで普段とは違う身体の使い方をするドライバーなどレース序盤から各選手体力的にも相当な負担がかかっているようだ。レースは抜けたトップから数メートル後方に第2集団が走行。大宮はこの第2集団。またそこから3～5メートル間隔で第3集団に佐藤はいる。佐藤はダンロップ&ヨコハマ陣営の選手に挟まれ、各車タイヤの特徴が違うブレーキポイントやラインの違いに苦しんでいる様に見える。レースは中盤。大宮の前方の選手がメカトラブルでリタイア。最高峰カテゴリーはドライバーはもちろん、シャーシやエンジン、タイヤや各種ドライブパーツといった各マテリアルにまで

本当に負荷が多く、運の要素も多分にあるカテゴリーだ。現在5位の大宮、ここで前のマシンを2コーナーでパス。4位に浮上したが、その後のラインどりが悪く次々の後続にパスされてしまい8位に後退…。佐藤は何故かペースが上がらない…。どうやら下りシケインを通過中にクラッシュバリアに軽く接触。フロントスポイラーもずれてしまい、後続にもパスされてしまったようだ…。佐藤はフィナルラップで集団の前方に躍り出てゴール。しかしフロントスポイラーがずれており5秒のタイムペナルティが加算されてしまう。シケイン接触のミスさえなければ苦しみながらも10位以内でのゴールは出来ただけに悔やまれる。そして大宮は、自身の最上位ポジション7位ではあったが、僅か1回のパッシング後の処理が悔やまれる7位であった。決勝のペースは予想通りで、予選でストップしてタイヤを使用しなかった選手以外で唯一の39秒台をマークしていた。



【第4戦 予選】 佐藤 DNS(リタイア) / 大宮11位



第4戦の予選は、ほぼ正午のこのレースウィークでも最も気温が高いであろう時間に始まる。スタート順は昨日のタイムトライアルの結果に戻り、佐藤は13位。大宮は16位からのスタート。レースは一度スタートをしたものの、ディレイ。またローリングで隊列を組むが、なんと佐藤が最終コーナーで失速・・・マシンを止めてしまう。なんとも痛いリタイア。レースはスタート、大宮は今回スタートで順位を上手く上げてくれる。このスタートでも大きなジャンプアップはないものの、2コーナーの立ち上がりから上手い位置取りでヘリポートコーナーまでに2つ3つポジションアップ。後方でアクシデントが起きたが、オープニングラップの前方から中団では大きな混乱は起きなかった。このレースでは前述の通り、瞬発的なタイムがでず苦しんだが、この予選レースのベストタイムでは悪くないタイムに思える。この予選前にセットアップを若干変更し、確かに瞬発力は他車に比べてまだ無いものの、第3戦の予選よりはタイム差もない。じわじわと前のマシンをパスし、11位でゴール。やはりこのレースでも非常にタイヤ残量を残している。佐藤は残念ながらマシンをスタート前にストップさせたが、決勝の展開次第では上位に食い込めるだろう。ここから決勝までは3時間半の待ち時間・・・。気温もかなり下がる決勝に向けて、細かいセットアップを行う。

このレースでは前述の通り、瞬発的なタイムがでず苦しんだが、この予選レースのベストタイムでは悪くないタイムに思える。この予選前にセットアップを若干変更し、確かに瞬発力は他車に比べてまだ無いものの、第3戦の予選よりはタイム差もない。じわじわと前のマシンをパスし、11位でゴール。やはりこのレースでも非常にタイヤ残量を残している。佐藤は残念ながらマシンをスタート前にストップさせたが、決勝の展開次第では上位に食い込めるだろう。ここから決勝までは3時間半の待ち時間・・・。気温もかなり下がる決勝に向けて、細かいセットアップを行う。



【第4戦 決勝】 佐藤12位 / 大宮 DNS(リタイア)

第4戦の決勝。上位でも恐らく非常に良い状態のタイヤコンディションの大宮と最後尾ながらほとんど新品タイヤの状態で上位を追う佐藤。しかしローリング早々に不運が・・・大宮がローリング開始直後にエンジンリードバルブの破損でシケイン手前でストップ・・・。タイヤのコンディショナルにも、また第3戦よりセッティングも詰めてこれただけに本当無念のDNSリタイアとなった。一方、最後尾から完璧なタイヤで上位を目指す佐藤。通常このような状況下ではスタートの混乱が無い限り表彰台近くまで行くのは難しいが、スタートは近年稀にみる一番きれいなスタートが切られ、スタートでのポジション大幅アップは難しくなった・・・。またタイムも出してほしいタイムにはコンマ2ほど足りず、また最高峰カテゴリーでは後方の選手までレース巧者でタイヤメーカーも違い特色も違う・・・。なかなか佐藤の思い通りにはいかず・・・。それでも17台をパスし、12位でゴール。トップ10以内でゴールしたいところであった。去年の茂原はスピードがありながら天候に泣かされ、今大会は決勝が楽しみなレースでしたが、タイムトライアルの場所取りや不運もあり中々思い通りにはいきませんでした。次戦は過去5勝のSUGO。正直、ここからはINTREPIDが過去でもスピードを見せつけた相性の良いサーキットが3大会。絶対に落とすわけにはいかないレースです。チームは本当にプロの仕事をしています。必ず、皆様にいい結果報告ができるように今後とも頑張ってまいります。引き続きご声援頂ければ幸いです。



ドライバー 佐藤 凌音 コメント



今回の茂原大会ではレースにおいての自分自身のフィジカル面や体力面が欠けており、レースウィークを通して調子をあげることが出来ませんでした。

そしてFフェアリングペナルティや、ヒートにマシンを止めてしまったことは次の大会では意識して戦っていきます。

しかしその調子が悪い中でタイムトライアルなど、

集中してレースを戦えたことは前向きに捉え、

次の菅生大会では優勝という目標に向かって戦います。

今大会も応援して下さいました皆様、サポートして下さいました皆様、ありがとうございました。

ドライバー 大宮 賢人 コメント



今回、レース1では表彰台に乗れる速さもあったのですが、自分のミスで表彰台を逃してしまいました。

レース2はトラブルでスタート出来ませんでした。

悔しいですが、仕方がないです。

次回の菅生までにもっと強くなり、勝ちます！

ありがとうございました！

INTREPID JAPAN CORSE 佐藤奨二 監督



茂原ツインサーキットは毎年チームとしてあまり良いリザルトを残して無いコースで、それもあって今回は特に事前準備を入念にして望んだ茂原大会でしたが、あまり良い結果を出すことが出来ず非常に悔しい思いです。チーム全員で今回の課題を相談して次戦もてぎ大会にはしっかり対応して臨みたいと思います。最後にいつも多大なるご支援を頂いておりますスポンサーの皆様をサポートに大変感謝申し上げます。次戦こそ良いご報告が出来るように準備致します。

